

環境計画の概要

ユニーは持続可能な社会を目指し、低炭素企業活動を通して循環型社会・自然共生社会を実現するために、環境方針に基づき、さらにエコ・ファースト企業として、継続的な環境保全活動を行っています。そのために、ISO14001マネジメントシステムを用い、具体的な環境目的および数値的な環境目標を設定し、達成するために取り組んでいます。2014年度からは環境マネジメントシステムの範囲を店舗に拡大、2016年度には68店舗でPDCAの環を回す計画です。現在だけでなく、未来のことも考えて計画を立て、お客様と一緒に「環境にやさしい買い物」で持続可能な社会を実現します。

環境計画

環境方針	取り組み項目	2015年度目標
環境マネジメントシステムの構築	■ISO14001による全社における環境マネジメントシステムの構築	■エコ・ファーストの約束達成のための環境実施計画年度目標を達成する
		■環境マネジメントシステムの範囲を店舗に拡大する今年度は、府県ごとに1店舗の登録認証範囲の拡大を目指す
エコストアの実現	■省エネ設備によるエネルギー削減	■新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定する
	■環境配慮商品の販売による低炭素型ライフスタイルを提供	■環境配慮商品eco:lonの容器包装の開発コンセプトを見直し、開発商品数および売り上げ拡大を図る ■環境配慮商品eco:lonのバリューチェーンの環境負荷低減効果を見る化し、お客様に訴求する
環境負荷の低減	■省エネへの取り組み	■CO ₂ を原単位で1%削減する
		■店舗エネルギー管理者に省エネ教育を実施する ■使用エネルギーを1%削減する
	■物流システムの見直し	■物流の合理化による環境負荷低減を図る ■段ボール 2%削減 ■PB商品の容器包装を見直し、包装資材の軽減化、バイオマスプラスチック製容器包装の拡大を図る
		■包装資材の使用削減 ■包装資材 3%削減 ■レジ袋辞退率 80%目標（2018年までに85%達成を目指す）
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	■廃棄物排出削減	■廃棄物排出総量 前年比 2%削減
	■食品リサイクル推進	■リサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る ■リサイクルループ参加店舗145店舗実現 ■リサイクル率 61.0% ■発生抑制 △25.0%（2007年度比） ■売り上げ100万円あたりの発生量 33kg ■再生利用等実施率 70.0%
		■店頭容器包装回収の推進
	■バイオマスプラ製容器包装	
環境情報の開示と環境保全活動	■環境情報の開示	■環境学習DVDの作成 ■チラシ・POPなどで環境配慮商品eco:lonを紹介し、拡販する ■新しいポスターを作成し、さらに情報提供を進める
	■環境保全活動	■クリーンアップキャンペーンを全店で年2回実施 ■店舗の省エネ教育を実施 ■子ども環境学習120回、農業体験8回
	■環境教育、啓発活動の拡大	■エコ博を10回開催、エコフェスタを4回実施 ■環境関連事業者連絡会セミナーの開催
環境汚染防止	■環境汚染物質の排出抑制と監視	■全店舗での排水水質監視を実施 ■低濃度PCBの適正管理を実施 ■フロン排出抑制法対応を実施

2015年度結果	評価	2016年度目標
■エコ・ファーストの約束をISO14001の環境マネジメントに組み込み、達成する	○	■エコ・ファーストの約束のフォローアップを環境大臣と行う
■茨城県（水害の影響）を除き1府18県下23店舗で認証取得	○	■環境マネジメントシステムの範囲を店舗に拡大する今年度は、アビタ全店舗で導入、68店舗の登録認証範囲の拡大を目指す
■エネルギー、廃棄物排出状況、レジ袋削減、排水質管理、リサイクルなどの管理システムで目標管理を実施	○	■既設店舗のLED照明付け替え効果および新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定する
■68店舗の照明器具にLEDを設置、食品売り場の冷凍ケースに扉付き（リーチン）を導入した	○	■環境配慮商品ecolonの容器包装の開発コンセプトの見直しを実施する
■環境配慮商品ecolonの開発、販売を拡大した	×	■開発商品数および売り上げ拡大を図る（前年比 110%）
■ecolon開発数 148件	×	■環境配慮商品ecolonのバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求する（CO ₂ 換算など）
■売上 約5億円（62.5%）※主力商品リニューアル中で売上減少	×	■CO ₂ を原単位で1%削減する
■カーボンフットプリントの算出ができなかった	×	■COOL CHOICE活動をお客様と一緒に取り組む
■2014年度比4.8%削減	○	■店舗エネルギー管理者に省エネ教育を実施し、検証する
■業務副店長会議で省エネ講習を開催（2回）	○	■使用エネルギーを1%削減する
■電気使用量932,416kWh（99.0%）△1.0%	○	■物流の合理化による環境負荷低減を図る
■ガス使用量 21,228千m ³ （95.7%）△4.3%	○	■エコドライブ啓発を推進する
■石油使用量 5,956千ℓ（93.5%）△6.5%	○	■段ボール 2%削減
■輸送距離・量・エネルギー使用量とも増加したが、CO ₂ 発生源単位は98.2%	△	■PB商品の容器包装を見直し、包装資材の軽減化、バイオマスプラスチック製容器包装の拡大を図る
■デジタルコ・ドライブレコーダー導入、エコ運転啓発	△	■包装資材 3%削減
■段ボール 1.6%削減 ※通いかゴ（青果など）の利用拡大のため	△	■レジ袋辞退率85%を維持する（2018年までに85%達成を目指す）
■バイオマスプラスチック製容器の店頭回収で再生製品を作製した	△	■廃棄物排出総量 前年比 2%削減
■レジ袋 587 t（95.3%）△4.7%	○	■事業継続のために、既存のリサイクルループの運用状況を確認し、生産品の流通ルートの確保、販売拡大を図る
■包装紙 137 t（99.3%）△0.7%	○	■既存のリサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る
■紙袋 146 t（96.0%）△4.0%	○	■リサイクルループ参加店舗150店舗で実施
■合計で前年比△3.97%	○	■リサイクル率 63.0%
■全店有料化店舗 100%達成	○	■発生抑制 △25.0%
■全社換算 86.1%	○	■売り上げ100万円あたりの発生量 31.0kg
■廃棄物総排出量 1%削減	×	■再生利用等実施率 72.0%
■廃棄物処理場、リサイクル現場を確認	×	■リサイクルボックスの回収品目を増やす
■営業店舗所在地1府18県でリサイクルループ15件を運用。（福島県を除く）	○	■全店4品目を回収する
■岐阜県でエコフィードを製造し鶏卵を生産する「橋本」が食品リサイクルループに認定された	○	■リサイクル回収量を増やす
■リサイクルループ参加店舗 145店舗	○	■回収した商品トレイをケミカルリサイクルで再資源化する
■リサイクル率 61.6%	○	■使用品目を増やす
■発生抑制 △28.9%（2007年度比）	○	■回収店舗を拡大する
■売り上げ100万円あたりの発生量 31.3kg	○	■環境学習DVDの作成
■再生利用等実施率 72.9%	○	■チラシ・POP・HPなどで環境配慮商品ecolonを紹介し、拡販する
■牛乳パック 530,667kg（97.8%）	○	■新しいポスターを作成し、さらに情報提供を進める
■トレイ 274,643kg（97.9%）	○	■クリーンアップキャンペーンを全店で年2回実施
■アルミ缶 647,981kg（107.1%）	○	■店舗の省エネ教育を実施
■ペットボトル 2,200,183kg（103.5%）	○	■子ども環境学習120回、農業体験8回
■リサイクルボックス回収実績 2.8%向上	○	■エコ博を10回開催、エコフェスタを8回実施
■透明プラスチック容器回収は未実施	×	■環境関連事業者連絡会セミナーの開催
■PB商品の容器包装の見直しを検討中	△	■教育用資料作成（iPad全対応）店舗での排水水質監視を実施
■リサイクル製品（道路工事資材）作製	×	■低濃度PCBの適正管理を実施
■店頭回収140店舗で実施	×	■フロン排出抑制法対応を実施
■ISO店舗導入教育用DVDを作成した	○	
■ecolonなどの情報を掲載、HPのリニューアル	○	
■環境掲示板の設置を標準化	○	
■全店実施	○	
■テナントの廃棄物分別教育を実施	○	
■子ども環境学習106回、農業体験8回を実施	○	
■エコ博を10店舗で10回開催、エコフェスタを5店舗で開催	○	
■メッセナゴヤ、EPOCに参加	○	
■講演会、リサイクル施設見学会を2回実施	○	
■水質検査の実施と排水管理マニュアル（DVD作成）の徹底	○	
■排水水質検査の全店実施、基準値以内に法令遵守	△	
■適正管理の実施	△	